

第21回日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会

Bグループリーグ第1戦	天候	雨	風	無	ピッチの状態	良
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between; padding: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <u>コンサドーレ札幌U-15</u> </div> <div style="text-align: center;"> 0 </div> <div style="text-align: center;"> $\begin{pmatrix} 0 & - & 2 \\ 0 & - & 6 \end{pmatrix}$ </div> <div style="text-align: center;"> 8 </div> <div style="text-align: center;"> <u>京都パープルサンガ</u> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: flex-end; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: right; margin-right: 20px;"> 14 枇榔 30 松田 50 宮吉 53 宮吉 </div> <div style="text-align: right;"> 59 宮吉 63 久高 67 宮吉 69 松田 </div> </div>						
シ ス テ ム			シ ス テ ム			
4-5-1			4-4-2			

試合開始前に雨が降り出してきた。多少スリッピーなピッチだが、ゲーム運びに問題は無い。開幕ゲームに20数発の花火が打ち上げられ、同時にコンサドーレのキックオフでゲームが始まった。立ち上がりの両チームは、お互いに手の内の探り合いか。7分コンサドーレは2本続けてコーナーキックのチャンスを迎えるが、シュートまではいけない。今日のコンサドーレは9番大地をワントップに置き、10番古田をトップ下の4-5-1のフォーメーションか。

先制点は京都。右からのアーリークロスに、9番が頭越しにスルー、走り込んだ15番が左45度から右サイドネットにクリーンシュートが決まる。その後もアーリークロスで攻め込む京都に、コンサドーレDF陣の対応のまずさから、再三ピンチを迎える。その不安は京都に2点目を献上する。右サイドDFにポジションに変わった6番平井からのバックパスを、GK安田が中央ヘクリアミス、京都11番が素早くインターセプト、そのままスピードに乗ってドリブル、コンサDFをすり抜けGK安田と1対1。30分に痛恨の2点目を喫する。そのまま前半は終了。

前半はコンサドーレのサッカーをさせてもらえず、いらいらがつのる。一方の京都も、ボール支配率は高いものの、中盤から早めにアーリークロスを放り込む、単調な攻めに終始していた。後半のコンサドーレの奮起に期待したいところだ。京都のキックオフで後半開始。

最初のチャンスは38分コンサドーレ19番岡本。左サイドから右足で打った30mのシュートは京都ゴールマウスをとらえたが、GKのフィスティングで得点は奪えない。

コンサドーレは前線への動きだしが、少しずつ早くなってきた。一方、京都も前半と変わらず9番へ早めのアーリークロスを入れて、突破を図ろうとする。45分を過ぎた頃からコンサドーレに疲れからか、ファーストタッチのミスが目立ち始める。後半動いたのは50分、京都交替したばかりの20番に、余裕のあるボールコントロールをされ、左足できっちりと決められる。

しかし、まだ諦めないコンサドーレは17分、古田が持ち込んだボールのこぼれを、14番三上が拾いチャンス作るが、京都GKに阻まれる。逆に京都のアーリークロスに手こずるコンサドーレは18分、ボールコントロールのミスから、京都にスローインを与え、パス一本でまたもや京都20番に渡り、ゴール正面ヘドリブルで運ばれ、4点目。その後は、立て続けに失点を重ね、終わってみれば京都シュート12本で8得点。0-8の屈辱的な大敗となったゲームであった。

戦評 加藤 孝俊